

仕分け作業で大忙し。第一貨物・仙台東支店夕  
—ミナル内（2月22日撮影）



# 発送は荷主の再開待ち

## 特積事業者

特積事業者の取扱量は復調している。東北運輸局がまとめた「東北地方における運輸の動き」の昨年11月度の貨物輸送量を見ると、トラックは特別積合せ（管内10社）が前年同月比で3.2%増と2か月連続で上向いた。震災直後は36・1%減少したが、救援物資や復旧資材などの需要もあり、

回復傾向が見られる。しかし、地域によって回復の度合いが違ってきた。

第一貨物（武藤幸規社長、山形市）仙台支社の菅野泰治支社長は「復旧・復興が

らみで、圧倒的に到着貨物が多い。また、仙台圏と被災した沿岸部には温度差がある」と話す。  
震災直後は救援物資や仮設住宅用の資材などで到着貨物が急増。発送貨物の落ち込みをカバーした。その一方で、被害の大きい沿岸部では、生産活動を再開できない荷主も多く、発荷物の回復はテンポが鈍い。食品類に大きな増減はないという。  
菅野氏は「建設資材など特大貨物が目立つが、特積み本来の姿ではない。今後は本格的な復興に向け、相当数の資材が動きそうだが、これでいいのかどうか……」と複雑な表情を浮かべる。